会員達のゲーム日誌

川代山女

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
会員達のゲーム日誌

【Ｎコード】
Ｎ９８５０Ｘ

【作者名】
川代山女

【あらすじ】
雪音はちょっと憤慨していた
何故私だけ能力が微妙なのか
その時、椿が持ってきたゲームによって転機が訪れる
これから起こる数多のイベント、そしてボス
雪音が主人公となって会員達と冒険に出かける

始まりと説明とゲームを（前書き）

その昔、とある友人が「雪音の能力微妙すぎない？」と行ってきました
その設定考えたのは私じゃないです元はと言えば貴方です

番外編だって意味はあります
というより本編より重要です
そして本編に反映されます
つまり……そうですねお楽しみですね

始まりと説明とゲームを

某月某日、データ実習室で雪音は愚痴を言っていた。
「どうして私だけバトルシーンが無いの？
設定でも馬鹿力があると書いてあるのに
全く出てもこないのはおかしくない！？」
「だってその力使ったら学校が壊れるからだろ？」
波田子は設定資料を見ながらふと思ったように言った。
「いいね～皆は派手な能力持っていてさ～」
「でもアタシは死なないだけだけどな」
波田子の能力も地味な凄い能力である。
「あんたじゃなくて香苗とか椿、水城の能力」
「ああ、確かに……」
二人は少し気を落としていた。
「はぁーあ、魔法とか魔術とか使えればいいのにな」
雪音が斜め上を見ながら言ったそのとき
扉が勢いよく開かれた。
「大変です！！調理室にこんな物が！！」
扉を開いたのは椿だった。
その手には一世代前のハード、ＳＡＮＴＥＮＤＯ６４を持っていた。
「こういう時は水城が出てきそうなんだけど、」
＊第７部までに水城は扉から出ては来ません。
「そんなことよりもこの張り紙を見てください」
６４に張られた紙にはこう書かれていた。
『貴女の願いをかなえるゲーム
”魔法と剣と銃のバトルもの”
クリアできたらお持ち帰り可』
「そしてソフトがこれです」
「○○ハ○と．○○○ｋとファ○○シ○ス○○とを合わせたような

画だな」
色々ごちゃ混ぜになった画でこのゲームがどんなゲームなのか分からなかった。
「あ。箱の中に説明書があるよ」
雪音はゲームをやる前に説明書を読む派のようだ。
「ええと、『このゲームをやる人は
・身体が元気であること
・ある程度身体能力がいいこと
・どんな事があっても文句を言わない人
起動方法はソフトが入っている状態で電源を入れて下さい
操作方法は暫らくやっていれば慣れます
あらすじ
この世界は人族、亜人族達と少数の魔族と竜族が暮らしています。
それぞれの種族は戦争を繰り返していました。
しかし戦争は互いに被害しか残しませんでした。
その後、平和条約が結ばれ種族間で争うことは禁止されました。
しかしどうやら不穏な影が少しずつ動き始めたようです。
あなたはこの世界の住人となってこの謎を解き明かして下さい
種族
・人族　繁栄能力に優れ、かなり大きな文明を築いている。ごく稀に不思議な能力を持つ者が現れる
・亜人族　人族とは違う特徴を持つ人のことを言う。人族よりも生命力が強い。

・竜族　竜（龍）、竜人のことを言う、寿命が永く、戦闘能力が高い、繁栄能力が低い

・魔族　竜族と並ぶほどの力を持ち、その力で多くの種族を恐怖に陥れた。

・精霊　自然や物に宿る意思を持った魔力の塊、精霊によっては魔族と並ぶほどの力をもつ。

・動物　世界に偏在する生き物、亜人族達の祖先。

ゲームの目的

自由気ままに暮らすもよし、謎を解き明かすもよし、アイテムを集めるもよし

強さを求めるもよし、です。しかし謎を解き明かさないとゲームクリアにはなりません。

主な施設

・宿屋

体力や気力を回復する場所です。料理を食べることが出来ます。

・アイテムショップ

薬や食料、本や武器、防具を買うことが出来る、中には非合法な店もあるようで……

・銀行

お金を貸し借りできる所です。借金も出来ますが借金がある状態ではクリアできません

闇金融もあり、金利が高いですが、多くのお金を借りれます。
借金が多くなると取り立てにやってきます。

・ギルド
それぞれの街や村などにある団体で、困っている人を助けてくれます。
ギルドに所属している人は殆どギルドの本拠地にいます。

・鍛冶屋
武器や防具を強化できる店です。強化でしか手に入らない物もあります

・料理店
料理の専門店で宿屋よりも少し高めですが大きな効果が得られます。

・病院
大病や死人を生き返らせることが出来ます。薬も売ってくれます。

・港
お金を払って海や湖を渡ることが出来ます。船の中に店があるものもあります。
定期券あり

・駅
列車が停まる場所でお金を払う事によって遠くに行くこともできます。
定期券あり

武器

・近接武器

剣や槍などの近くいる者に攻撃できる武器です。

多くの者が扱うことが出来る。

武器によっては効かない敵もいます。

○剣

人型の種族が使う武器、

双剣や長剣、大剣などがあり大きくなるほど

威力、攻撃範囲が大きくなり、速度が下がります。

厚い鱗や鎧を纏っている敵には効きづらいです。

○槍

全ての種族が使える武器

スピア系とランス系があり

両方ともあまり鱗や鎧の影響を受けません

スピア系は軽く、突きや薙ぐことも出来ます。

ランス系は重く、威力が高く、貫通して攻撃できます。

……ｅｃｔ……

・銃器

拳銃やスナイパーなど精密な攻撃を行うことが出来ます。

人型の者が扱うことが出来ます

貫通効果の付く武器が多いです

武器によっては効かない敵もいます。

○拳銃

軽く、連発して撃つことが出来ます。

しかし防御力の高い鱗や鎧には効きません。

○スナイパー
長い銃身によって精密な攻撃が出来ます。
遠くから攻撃でき、当たり所によっては
防御力の高い敵にも大きなダメージを与えられます。

……ｅｃｔ……

・魔術など
限られたものしか使うことが出来ません
しかし強大な威力を持っていたり、
回復なども出来る貴重な存在です。
全ての魔術に広い範囲効果が付き、貫通するものもある。

魔族や竜族、人族や亜人族の少数が使える。

呪文系と呪紋系などがあり、
呪文系は言葉にだして行い、詠唱が終わるまで発動しない。

ある程度の熟練者は無詠唱で発動できる。
呪紋系は紋様を描いて発動させる魔術、
呪文と違い描くため発動まで時間が掛かり、扱いが難しい

熟練者は一瞬で描くことが出来る。
○攻撃系
主に属性系が占めており、
基本系で炎　地　水　空の四大属性で、
応用系で金　木　闇　光が扱える
○支援回復系
基本系は攻撃力強化、防御力強化、体力回復、気力回復があり

応用系で敵の攻撃力低下、防御力低下、状態異常、光は敵味方を蘇生出来る。

・合成武器

機械槍や魔法剣、銃剣、迫撃槍といった複数の武器を合わせた武器です。

強化を重ねていくと鍛冶屋で行うことが出来ます。

魔法○などは魔術を扱えるものにしか合成できず、魔法の使用回数が決まっており、

使い終わったら魔術を使うことが出来る者に補充してもらわなければなりません。

しかし魔術を使えない人にも扱えます。

機械○などは

近接系の武器を最終強化していくとあるアイテムと合成できます。

普通の近接武器よりも強力で、鱗や鎧のある敵にもダメージを与えられます。

○銃、銃○などは近接と遠距離系の武器を最終強化すると合成できます。

ほぼ全ての敵に対応できる武器ですが二つの武器を強化しないといけないので

かなりの費用がかかります。合成費用も安くはありません。

アイテム

・回復薬

傷を治したり、気を安らげたり出来る薬、種類もたくさんある。

・爆弾
設置したり、投げたりすることによって攻撃出来るアイテム
大きなダメージを与えられる。

・魔術紙
魔術が封じられた紙、魔術が使えないものにも使用できるが
かなり高価、何枚も使うことにより魔法剣などを補充できる
使い終わるとただの羊紙になる。

・ただの羊紙
契約書などに使われる紙、魔術師は魔術紙を作ることが出来る。

・古い本
普通の本から魔術書まである。
買うまでどんな本なのか分からない。

ｅｔｃ……』

だって、
」
「長いですね……」
「説明書なんてそんなモンだろ？」
三人は長めの説明書を読んでようやく電源に手を掛けた。
「さてやってみるか」
波田子はテレビにコードを繋いだり、コンセントに差したりなど
準備をしていた。
「準備できましたか？」
と椿が聞くと

「ああできたぜ」
と頭に埃を乗せて答えた。
そして波田子が電源に手を掛けたとき雪音が
「香苗と水城が来てないけどいいの？」
「来たら替われればいいだろ？」
早い者勝ちだから遅い方が悪いという考え方であった。これが三人のこれから起こる悲劇の始まりだった。
そして波田子が電源を入れると
テレビの画面にノイズが走り、
ザァーという音と共に光りだした。
「「「目が、目がー！」」」
と三人はムスカ大佐のまねをしながら
これから起こる面倒くさい冒険を始めさせられるのであった

始まりと説明とゲームを（後書き）

設定がよく変わるのでそのまま放置してあり
矛盾があったりするかもしれませんが許してください

私は家で寝てたいんです
布団に包まって至福の時を過ごしていたいんです
時間とやる気と詳細な設定を下さい
実在の人物をモチーフにしていると設定付け辛いんです

休日は布団に限りますね！

初めてのお使い　もとい、買い物（前書き）

年越しましたね
いい加減更新してと言われたので急いで終盤を書きました
眠いです

初めてのお使い　もとい、買い物

光が消えるとある変化が起こっていた。
「あれ？データ実習室にいたはずなのに……」
周りの風景は街の風景になっていた。
「これって……」
「水城のせいだろうな」
三人は同じことを考えていた。
恐らくゲームの世界の中に入らされたのだろう。
多分、ゲームクリアしなければ帰れない。
三人は安易にゲームの電源を入れたのを後悔した。
「とりあえず情報を集めようぜ」
と波田子が言ったとき一枚の羊紙が波田子の前に飛んできた。
「なんか書かれてるな、『ステータスなどの見方などを忘れていたので書きます。
右にある、雑貨店に入ってアイテムポーチを貰って下さい。そしたら説明します。』」
そして右を見ると小さな雑貨店があった。
「とりあえず入りましょう」
椿が扉を開くと中には黒目黒髪の１２才ほどの少女がいた。
「いらっしゃいませー。何をお探しですか？」
と言った。すかさず椿が、
「アイテムポーチを探しています。ありますか？」
「ありますよー。特別にタダであげちゃいます」
ゲームの様に流れよく進んでいった。
「ゲームってこんなものだよね」
「なんか味気ないな」
波田子と雪音はゲームの特徴である。

プログラムされていないことはしないという
流れ作業を体感した。
「使い方はその中にある辞典に調べたい人や物を入力すると情報が出ますよ。
アイテムポーチには最大５０種類のアイテムを持つことが出来ます。
今は辞典が入っているので４９種類入れられますよ」
「親切にありがとうございます。
早速、パーティのステータスを見てみましょう」

雪音
・人族
・使用できる武器
双剣、長剣
長槍
手袋系
ピストル
長弓
本系
詠唱魔術
基本攻撃系
基本支援回復系

装備できる防具
軽、中量防具

装備
武器　なし
防具　制服
装飾品　なし

Ｌｖ１
ＨＰ４００
基本攻撃力　１５０
基本防御力　４３

特殊効果　基本ステータスが高い

椿
・人族
・使用できる武器
　出来ない

装備できる防具
　軽、中量防具

装備
武器　なし
防具　制服
装飾品　なし

Ｌｖ１
ＨＰ３５０
基本攻撃力　８０
基本防御力　６０

特殊効果　北斗神拳、ザ・ワールドによってほぼ最強

波田子

・亜人族
・使用できる武器
大剣
大槌
ロケラン
Ｇランチャー
長弓
装備できる防具
重量防具
装備
武器　なし
防具　なし
装飾品　なし

Ｌｖ１
ＨＰ２００
基本攻撃力　１５
基本防御力　１０

特殊効果　ＨＰ０になったあと次ターンで蘇生する。

「……アタシのステータス低っ！！」
「あ、まだ続いているみたいだよ」

水城
・人族
・使用できる武器
槍系

手袋系
本系
錬金術系不可
装備できる防具
　軽、重量防具
装備
武器　なし
防具　店員服
装飾品　なし

Ｌｖ１
ＨＰ８０
基本攻撃力　１０
基本防御力　８

特殊効果　酒系を飲むと死亡

「「「……」」」
「……ばれたみたいね」
「水城、何故ここに？」
「一応テストプレイも兼ねてやってみたのだけれど
　失敗してしまったの」
「だからちっちゃくて弱いのか」
波田子がステータスが低いことを聞くと
「雪音と椿が強いのよ。私と波田子のステータスが普通なのよ」
「水城って魔族のような感じがするけど今はそんな感じがしないね」
雪音がいつもの水城に感じる邪悪な雰囲気が感じられないことを言うと
「ここに入ったときにお呪いと錬金術を失ってしまったの」

「それでそんな子供のような体型になったんですか」
椿が腕組みをしながら大きな胸を持ち上げた。
「「「「不思議だね～」」」」
四人は同じことを口ずさんだ。
「とにかく武器と防具を買わないと……」
と雪音が言いながらアイテムポーチから所持金を見てみると
３万円が入っていた。
「これは普通の金額なの？」
「一応ね。基本的な武器と防具はそれだけで買えるわ」
「つまり、一人当たり３万円、最大５０種類のアイテムが持てる訳ですね」
「アイテムやお金の受け渡しは出来るのか？」
「出来るわ、だから一人が金欠になっても立替が出来るし、
アイテムがいっぱいでも他の人に持ってもらえるわ」
「意外と作りこんであるんだな」
「まあね」
そして四人は店を出てアイテムショップに入った。
「いらっしゃい。冷やかしだったらとっとと帰れよ～」
「口が悪い店員だね」
「武器と防具はありますか？」
と椿が聞くと店員は左の方を指差した。
そこには剣や銃などが置いてあった。
続いて右を指差すとそこには
鉄の鎧と革の服が置いてあった。

ハンドナイフ×２
６００円
刀
５０００円
ラージソード

１５０００円
軍手
１００円
アイアンハンマー
１００００円
ナイトランス
１００００円
拳銃
３５００円
弓矢
７０００円

アイアンメイル重量装備
１２５００円

スチールメイル中量装備
９８００円

レザークライス軽量装備
７５００円

と書かれていた
「どうしてアタシの装備できるのは高いんだ！！」
「まあまあ最大２７５００円なんだから大丈夫ですよ」
「なんで軍手が１００円なんだよ安すぎるだろ！！」
「とりあえず買いましょう。出なければ進まないわ」
そして雪音は刀とレザークライス
椿はレザークライス
波田子はラージソード、アイアンメイル
水城はナイトランスとアイアンメイルを買った。

「回復薬は……
癒しの水一個３５０ｍｌ　５０円
スタミナドリンク２００ｍｌ　１５０円
尊酒シーマ　１０００ｍｌ　１００００円
神酒ネクタル　３５０ｍｌ　５０００円
鬼泣かせ　１０００ｍｌ　２５００円
色々あるね」
「酒系が多いのがちょっとな……」
「こっちは本系みたいですよ
今日からマ法使い！（紙）　１００００円
辞典追加ページ（紙）　５００円
蘇生契約書（紙）　１００００円
古本（書）　５０００円
だそうです」
「追加ページは欲しいよな……」
「私はマ法使いを買っておいた方が良いよね？」
「そうね。それを買って使用すると使える魔術が増えるわ」
「装備できないの？」
「（書）が付いている物しか装備できないわね」
「なるほど」
そして雪音は癒しの水５０個、スタミナドリンク２０個、今日からマ法使い！を買い残金２０００円
椿は癒しの水１５０個、スタミナドリンク２０個、鬼泣かせ1瓶を買い残金９５００円
波田子は辞典追加ページ買い残金２０００円
水城も何も買わず残金？円
「水城、お金ないの？」
「ないって訳じゃないわ、ゲームを楽しくプレイするために、ね」
「「「？」」」
いまいち意味が理解できなかったが考えても無駄なので考えないこ

とにした。
ゲームを進めるためには街の人に話しかけることからはじまる。
店を出て、最初に目に付いた人に話しかけることにした。
「何か、最近変わったことはないですか？」
と椿が周りからガチャと呼ばれそうな人に聞いた。
「変わったこと？そうだな～ついこの間、ドリルのような髪形をした女の子が
街の外の森で何かやっているみたいだが……」
「そうなんですか、ありがとうございます」
椿は有力な情報を得た！！
念のためもう一度話しかけてみると
「ドリルヘアか、お嬢様キャラなんだろうな」
と言っていた。
「ドリルヘアの女の子か、心当たりがありそうなんだけど……」
「私もです」
「アタシも」
「……」
全員なんとなく予想がついた。
「街の外に出てみよっか」
雪音の発言に皆は賛同した。
街の外は鬱蒼としており、何が潜んでいるか分からない。

初めてのお使い　もとい、買い物（後書き）

もう伏字とか面倒くさいです

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9850x/

会員達のゲーム日誌

2012年1月6日02時49分発行